



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学 (茨城県)

自然・文化・国際性豊かな「サイエンスシティ」つくばで学ぶ日本語・日本文化

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

筑波大学は、国内的にも国際的にも「開かれた大学」として、旧来の固定観念に捉われない柔軟な教育研究組織と時代の要請に応える新しい大学の仕組みを創出することを基本理念として、1973年10月に開学した。社会経済環境が大きく変化するなか、筑波大学は未来を構想するフロントランナーと自らを位置付け、地球規模の課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材を輩出する、世界的な教育研究の拠点となることを目指している。

学士課程：

人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、生命環境学群、理工学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群、グローバル教育院、総合学域群

学士課程専任教員数：教授、准教授、講師、助教
計 1,524 名

学生数：学群生 9,634名、 大学院生 7,088名
計 16,722名

(2024年5月現在)



② 国際交流の実績

在籍留学生数：2,411名/116か国（2024年5月現在）
協定締結：68か国・地域の大学や研究機関と
386協定（2024年10月現在）

過去3年間の実績

2024年：留学生数	2,411名
日本語・日本文化研修留学生	4名
2023年：留学生数	2,399名
日本語・日本文化研修留学生	6名
2022年：留学生数	2,226名
日本語・日本文化研修留学生	4名

③ 地域の特徴

つくば市は東京の北東60km、北に筑波山を仰ぎ、東に霞ヶ浦をのぞむ自然環境の豊かな地域に位置している。筑波研究学園都市（サイエンスシティ）として国内外に知られており、市内には、国の研究機関・大学を中心とし、民間の研究・教育機関等が多い。そのため、外国からの研究者・留学生が多く住んでおり、国際色豊かな街を形成している。つくばと東京都心はつくばエクスプレス（TX）により最短45分で行き来することができる。



自然豊かなキャンパスが魅力

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

- i) 日本語・日本文化研修留学生（以下、日研生）向けの授業科目を設けている。その他の科目でも、日研生の興味に応じた授業を履修することができる。
- ii) 日本語と日本文化について、教室内外での実習による学習を重視している。
- iii) 修了レポートの執筆を課している。
- iv) 様々な研究内容に対応可能な指導体制で、親身できめ細かい指導を行う。一人一人に学術チューターがつく。

③ 受入定員

8名（大使館推薦：6名 大学推薦：2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日研生となることを希望する者は、以下の条件を満たす者とする。

i) 資格

来日時点で、外国（日本以外）の大学の日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在籍する者、またはそうした学部・学科に所属していない場合であっても、日本語・日本文化に強い関心を持つ者。ただし、1年生は対象外とする。

ii) 日本語能力

日本語による授業を理解し、日本語の参考文献を読み、日本語でレポートを書き、口頭発表を日本語で行なう能力のある者。日本語能力試験N2程度以上が必要となる。

⑤ 達成目標

日本の言語と文化について幅広く学び、日本についての理解を深める。これらの学習を通じて日本語の運用能力を高める。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2025年9月下旬 ～ 2026年9月下旬
(2025年10月1日 ～ 2026年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月 ～ 2026年9月

⑧ 年間行事・年間スケジュール（予定）

9月下旬：渡日
9月末：オリエンテーション
11月：留学生パーティー
11月下旬：学外研修
12月：修了レポート構想発表会
4月：修了レポート中間発表会
5月：日本語・日本文化学類生との交流会
7月：修了レポート発表会
9月初旬：修了式
9月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

合計20単位以上修得し、日本語・日本文化分野に関する修了レポートを提出した者には「修了証書」を授与する。

※なお、研修終了日より以前に早期帰国を希望する場合には、事前相談に基づき事情を判断し、所定の手続を踏むことを条件に、認める場合がある。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

i) 研修・コース科目の特徴
日研究生は主に日本語・日本文化分野に関する授業に興味に応じて履修することができる。また、日本語能力を向上させるため、本学が開講する日本語コースを履修することもできる。修了レポート執筆に係る科目群において、日本語によるアカデミックライティング指導を重視した科目づくりになっている。

<表1> 研修科目及び単位数

	研 修 科 目	計
(Ⅰ)	日本語・日本文化実験実習	1
	日本語・日本文化基礎研究	1
	日本語・日本文化特別研究	2
	日本語・日本文化修了レポート	2
(Ⅱ) *	現代日本語概論Ⅰ	1
	言語学概論	1
	日本語教育概論	1
	日本の文学概論	1
	日本文学の歴史	1
	世界文学と日本文学	1
	多文化の中の日本	1
	日本語・日本文化共同研究Ⅳ	1
	言語教育対話実習Ⅰ	1
	言語教育対話実習Ⅱ	1
(Ⅲ)	総合日本語コース（中級～上級）	**
(Ⅳ)	選択科目	**

* 年度によって開設科目の変更がある。
** 選択した科目によって単位数が異なる。

ii) 研修・コース開設科目

必修科目（60コマ、90時間）

<表1>の（Ⅰ）の科目。本コースのために特別に開設されている。

- ・「日本語・日本文化実験実習」：学外研修
- ・「日本語・日本文化基礎研究」：
修了レポート作成のための基礎指導
- ・「日本語・日本文化特別研究」：
修了レポート作成指導
- ・「日本語・日本文化修了レポート」：
修了レポート作成・発表

選択必修科目（40コマ、60時間）

<表1>の（Ⅱ）の科目群から最低4科目（4単位）を選択して履修する。

- ・「現代日本語概論Ⅰ」：
現代日本語の音声・音韻、語彙、文法、談話・文章
- ・「言語学概論」：
言語の類型、言語の構造と意味
- ・「日本語教育概論」：
日本語教育のコースデザイン
- ・「日本の文学概論」：
海外に翻訳・紹介された日本文学
- ・「日本文学の歴史」：
日本文学の基層となる古代文学
- ・「世界文学と日本文学」：
文学作品に描かれた人と動物の関係
- ・「多文化の中の日本」：
多文化状況の中の日本について検討
- ・「日本語・日本文化共同研究Ⅳ」：
日本文化に関する日本人学生と留学生との共同研究
- ・「言語教育対話実習（Ⅰ・Ⅱ）」：
日本人学生と留学生による外国語模擬授業のチームティーチング

総合日本語コース（中級～上級）

プレースメントテストの結果に基づいて、各自に合ったレベルを受講する科目である。技能別の上級レベル日本語の授業も含み、本学のグローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）が開設する日本語コースである。ただし、日研生コースの修了要件として認められる単位数は、6単位を上限とする。

選択科目

日本語・日本文化学類や他学類の開設する科目の中から日研生の興味に応じて自由選択できる。

iii) 見学・地域交流等の参加型科目

必修科目の「日本語・日本文化実験実習」は、学外研修であり、日本人のチューターと共に日本文化や日本人の生活について学ぶ。

iv) 日本人学生との共修等の機会

＜表1＞の(Ⅱ)と(Ⅳ)の科目は、日本人学生が履修する正規科目で、これらの科目を履修することによって日本人学生との共修・協働の機会が得られる。



日本語・日本文化実験実習（成田山新勝寺）

⑪ 指導体制

i) 担任教員と副担任教員が指導を行う。

担任教員 江口 真規 助教
副担任教員 葛西 太一 准教授

ii) 日研生一人につきチューター一名が配置され、主に生活面を手助けする。

iii) 修了レポートを執筆する時期には、各日研生について、担任教員とは別に、専門に応じた指導教員と学術チューター（大学院生）が指導を行う。

■ 宿舍

全員が筑波大学の単身用宿舎に入ることができる。入居時に、1か月分の宿舍費（3～4万円程度）および保証金（3万円）の支払いが必要である。また、希望すれば、大学周辺の民間アパートを借りることもできる。

■ 修了生へのフォローアップ

修了生のためのメーリングリストや、日本語・日本文化学類のウェブページ、SNSを利用し、情報発信や交流を図っている。



日本語・日本文化研修留学生修了式

■ 問合せ先

＜担当部署＞

◆コース内容について

筑波大学日本語・日本文化学類

住所：〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL： +81-(0)29-853-6764（直通）

FAX： +81-(0)29-853-6839

E-mail：nichi2_office@un.tsukuba.ac.jp

◆事務連絡について

筑波大学学生部学生交流課

住所：〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL： +81-(0)29-853-6090（直通）

FAX： +81-(0)29-853-6204

E-mail：isc-short-term@un.tsukuba.ac.jp

＜ウェブサイト＞

筑波大学：

<http://www.tsukuba.ac.jp/>

筑波大学日本語・日本文化学類：

<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/jss/>



日本人チューターとキャンパス内をサイクリング